

## 市民バス各路線の主な運行内容

路線名	平成31年4月1日以降の運行内容				備考
	主な見直し内容	運行日	平日便数	休日便数	
侍浜線	●休日を市日限定で増便	平日(南:月・水・金/北:火・木) 休日(市日限定)	4 行2/帰2	2(市日) 行1/帰1	
川代線	●平日を増便 ●休日を市日限定で増便	平日 休日(市日限定)	3 行1/帰2	2(市日) 行1/帰1	
新町線 (新町循環線)	●折り返し運行に変更 ●平日を増便、休日を減便	平日 休日(市日限定)	7 行3/帰4	2(市日) 行1/帰1	平日7便のうち久慈駅⇄高校前直通便が2便
日吉循環線	●平日を増便、休日を減便	平日 休日(市日限定)	5 行2/帰3	2(市日) 行1/帰1	
山根線	●平日を一部減便	平日 休日(市日限定)	5 行3/帰2	4 行2/帰2	
久慈海岸線	●平日、休日を一部減便 ●夏季の休日は増便	平日 休日(4~10月は増便)	5 行2/帰3	2~4 行1/帰1	4~6月、10月の休日は3便 7~9月の休日は4便
山形線 (通学支援バス)	●有料化 ●原則1日1往復に減便 ●運行日は増	平日 休日(土曜限定)	2 行1/帰1	1(土曜) 行1/帰0	新規路線 夏・冬・春休みなど学校休業期間は帰り便を運休
津内口デマンドタクシー	●休日を減便	平日 休日(市日限定)	3 行1/帰2	2(市日) 行1/帰1	
根井デマンドタクシー		平日(第2・4木曜日限定)	2 行1/帰1		

4月から

# 市民バスの運行内容が変わります

4月1日から市民バスの運行内容が変わります。新しい時刻表は3月中旬以降に、公共施設や駅、バスの車内などに備え付けて配布する予定です。皆様のご理解とご利用をお願いします。  
 閩地域づくり振興課 ☎ 52-2116

## 市民バス利用者などの推移

年度	H26	H27	H28	H29
利用者数(人)	63,516	67,124	60,477	59,644
運賃収入(万円)	1,814	1,774	1,600	1,543
委託料(万円)	3,153	3,249	3,310	3,303

②夏季など観光ニーズに対応した運行を導入(小袖海女センターでの海女の素潜り実演の見学に対応)  
 ③利用実態を踏まえ、年末年始を運休とします

市民バスの運行には、年間約5000万円がかかっています。そこから運賃収入の見込額を差し引いた額が市の負担額(委託料)です。運賃収入実績が一定より見込額を下回った場合は、市が不足分をさらに負担する仕組みになっています。

### 鉄道や民間バスも減少

市民バスの利用者数は平成27年度から年々減少し、平成29年度には6万人を下回りました。運賃収入は平成26年度から毎年減少しています。

支えているのは皆さん  
 通院や買い物など生活に欠かせることのない「地域の足」。公共交通を支えているのは皆さん一人一人です。普段は自家用車で移動している人も、時には三陸鉄道やJR八戸線、バスなどで出掛けてみてはいかがでしょう。安全・安心な公共交通の移動の楽しさを感じることができるといいですね。

鉄道やバス、タクシーなどがこれからも運行し続けられるよう、皆様のご理解とご利用をお願いします。

利用者が減っているのは鉄道や民間路線バスも同じです。県内でも毎年のようにバス路線が廃止されています。走っているのが当たり前のように感じられる公共交通ですが、利用されなければ運行を続けることは難しくなってしまうのです。



調査や意見交換を実施  
 市民バスの運行内容見直しに向けて、市では昨年度から利用区間や頻度、利用目的などを把握するための利用実態調査やアンケート調査のほか、各地区の利用者や交通事業者との意見交換会などを実施。その中で、次のような課題や特徴が見えてきました。

- ①同じ時間に複数のバスが久慈駅を出発している
- ②鉄道や民間路線バスとの乗り継ぎがあまりできない
- ③運行区間が民間路線バスと一部重複している
- ④平日は利用されても休日の利用は少ない。「市日」が開かれる日は利用が多い

課題を踏まえた見直し  
 これら現在の課題や特徴と、各路線の利用状況を踏まえ、4月1日から次のように運行内容を見直します。(左ページの表もご覧ください)

- ①乗り継ぎや街なかの移動がしやすくなるよう、運行時刻を変更します
- ②JRバスなどと一部重複する新町循環線の経路を循環型から「折り返し運行」に変更。民間路線バスと役割分担して効率化を図ります
- ③一部の路線は、休日を減便して平日を増便。利用者が多い平日をなるべく使いやすくします
- ④「市日」が開かれる3と8がつく休日は市民バスを運行。やませ土風館経由で利用しやすくします

有料化や年末年始運休  
 そのほかの主な見直し内容は次のとおりです。

- ①山形地区からの高校通学の通学支援バスを有料化。山形線として1日1往復を基本に運行し、これまでより運行日を増やします